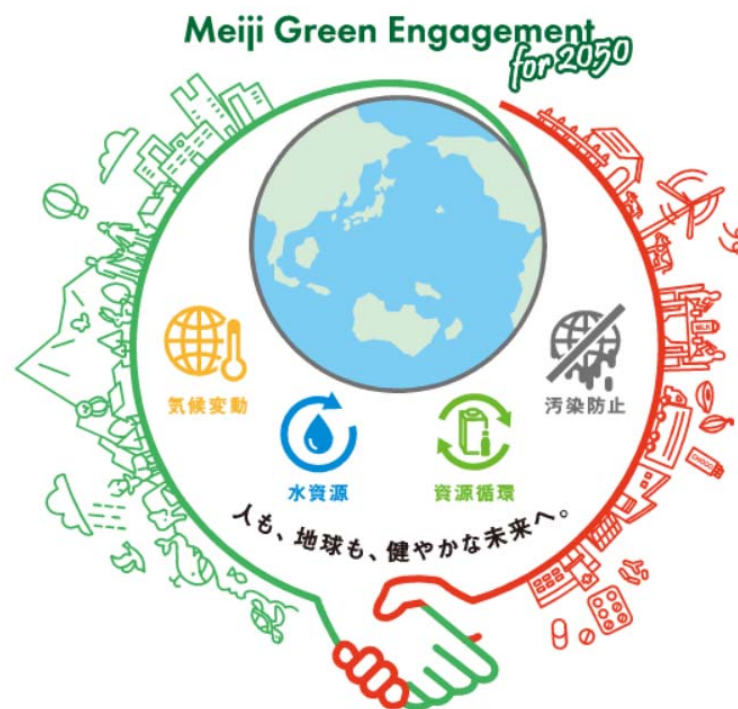




証券コード：2269

# 明治グループ長期環境ビジョン発表会



2021年3月1日

明治ホールディングス株式会社

**1. 明治グループ長期環境ビジョンについて**

**2. ESG投資枠について**

**3. サステナビリティファイナンス・フレームワークについて**

**1. 明治グループ長期環境ビジョンについて**

2. ESG投資枠について

3. サステナビリティファイナンス・フレームワークについて

## 2050年に各分野で想定される状況

### 1.気候変動

- ①世界の温室効果ガス排出量は**1.5倍**に増加
- ②気温上昇2℃以内という**パリ協定の国際目標を超える**

### 2.水資源

- ①水道が利用できない人口は**2億4000万人**以上に上る
- ②基本的な衛生施設を利用できない人口は**14億人**に

### 3.廃棄物

世界の人口増加に伴い、**廃棄物処理の課題が深刻化**

### 4.環境汚染

インドや中国を中心に、粒子状物質による死亡者が**2倍**の年**360万人**に

### 5.生物多様性

陸上の生物多様性は2050年までにさらに**10%**減少

資料中のデータ: 経済協力開発機構(OECD)『OECD環境アウトルック2050』

## 1. 明治グループと生態系とのつながり

### (1) 明治グループの事業

- ① 自然の恵みが維持されていることが不可欠
- ② 自然資本は重要な経営基盤



### (2) 将来に向けて

自然の恵みを享受するために、生物多様性を保全し、生態系を維持することが必要

## 2. 生態系ピラミッド



出典：©（公財）日本生態系協会  
生態系の維持には十分な水や空気などの自然資本が必要

## 1. コンセプト

将来にわたって**自然との共生**を図るために、企業活動に伴う環境負荷の最小化

## 2. 名称

明治グループ長期環境ビジョン  
「Meiji Green Engagement for 2050」

## 3. 「Engagement」に込めた想い

### Engagement

#### ① 対話

地球環境と**対話**をしながら  
「人も地球も健やかな未来」を目指す

#### ② 約束

健全な地球環境の維持を**約束**

#### ③ 貢献意欲

従業員が自発的に活動し、  
持続可能な地球環境の実現に**貢献**

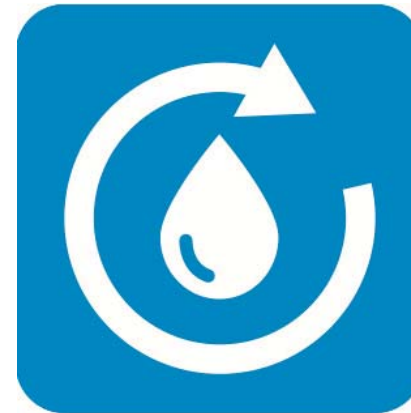
## 4. キービジュアル



## 4つの活動ドメイン



気候変動



水資源



資源循環



汚染防止



気候変動

【目指す姿】

## カーボンニュートラルを実現

### 2050年目標

- ① 2050年までに、サプライチェーン全体でCO<sub>2</sub>などの温室効果ガス排出量を実質ゼロにします（カーボンニュートラル）
- ② 2050年までに、自社拠点における総使用電力量に占める再生可能エネルギー比率100%を達成します

気候変動



## 2050年目標達成に向けて

### CO<sub>2</sub>削減

#### グローバルでのCO<sub>2</sub>総排出量(Scope1,2)を削減

2023年度目標：**23%以上**削減

2030年度目標：**40%以上**削減

\*2015年度比

### 再生可能 エネルギー活用

#### グローバルで総使用電力量に占める再生可能エネルギー 比率を拡大

2023年度目標：**15%以上**へ拡大

2030年度目標：**50%以上**へ拡大

## 1. 現状の主な取り組み

### (1) CO2削減に向けた省エネ活動

#### ① 省エネ機器の積極導入

トッランナー変圧器



#### ② 生産設備の最適制御

変電所マルチメーター



#### ③ モーダルシフトの積極的導入

### (2) 再生可能エネルギーの活用

#### ① 太陽光発電パネル導入拡大

メイジ・アメリカ  
サンタアナ工場



#### ② メタン発酵によるバイオマスエネルギーの活用

坂戸工場  
メタン発酵処理施設



#### ③ 再生可能エネルギー由来電力の活用

## 2. 今後の主な取り組み

① SBT認定の取得  
(Science Based Target)  
2022年度の取得を目指す

② インターナルカーボン  
プライシング (ICP) の導入  
2021年度中に導入

③ 次世代技術の利活用  
新技術の導入を検討

## 1. 特定フロン全廃

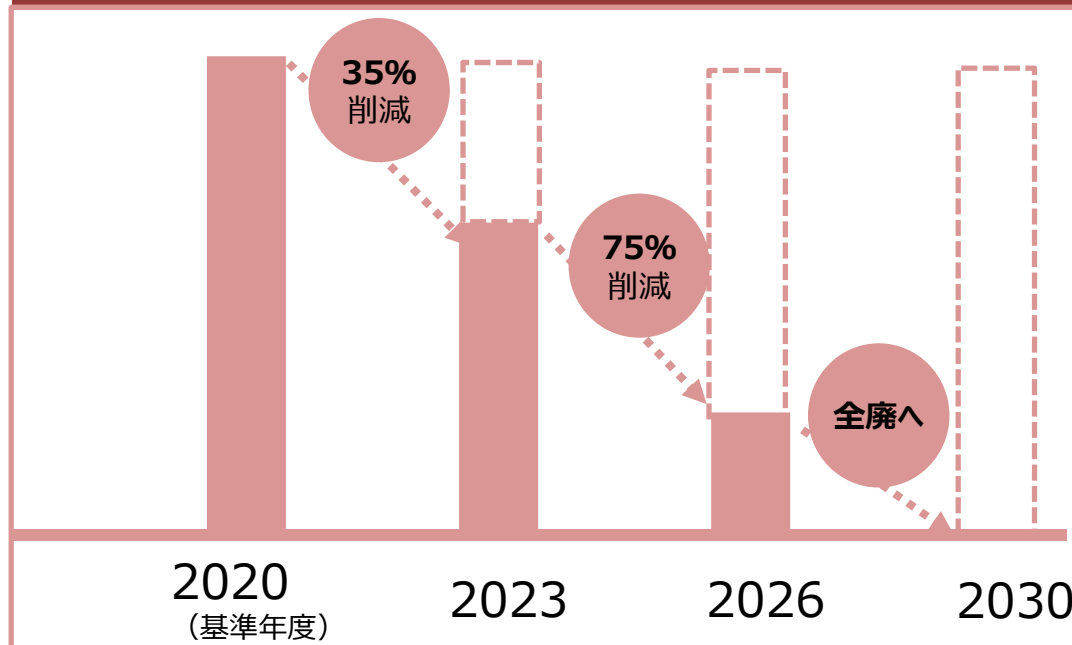
特定フロン削減

### 国内明治グループにおいての特定フロン保有量

2023年度目標：35%以上削減

2030年度目標：全廃 \* 2020年度比

## 2. 特定フロン全廃へのマイルストーン



## 3. 具体的な取り組み

現状約1500台の特定フロン  
使用機器を所有

自然冷媒機器や代替フロン機器  
への転換



水資源

**【目指す姿】**

**限りある資源である水の永続的な  
利用の実現**

**2050年目標**

- ① 2050年までに、自社拠点での水使用量の原単位を2017年度比で半減します
- ② 2050年までに、製品原料として使用する水を100%還元します（ウォーターニュートラル）
- ③ 自社拠点が立地する地域や、原料調達地域での水リスクの解決に取り組みます

水資源

## 1.2050年目標達成に向けて

水使用量

### グローバルでの水使用量（原単位）を削減

2023年度目標：10%以上削減

2030年度目標：20%以上削減

\* 2017年度比

## 2.具体的な取り組み

(1)リデュース

### ①洗浄水の効率的使用

愛知工場



### ②節水機器の導入

節水ホース



節水ノズル



### ③雨水の活用

明治イノベーションセンター



(2)リユース

### 冷却水の再利用

水循環型の冷却器



# 水資源：ウォーターニュートラルの実現

## 1. 2050年目標達成に向けて

水使用量の還元

製品原料として使用する水の還元率

2023年度目標：27%以上

2030年度目標：45%以上

## 2. 水源涵養について

涵養の方法

① 森林保全

② 水田湛水

③ 雨水浸透

## 3. 現状の取り組み

① KMバイオロジクス(株)において、水田湛水を実施。

② 2020年度は約18%の水を還元予定

熊本市にて  
水田湛水を実施



## 4. 今後の取り組み

- ① 工場水源地における森林保全や、新たな水田湛水の実施
- ② 工場の敷地内への雨水浸透設備の導入

# 水資源：水リスクへの対応

## 1.水リスク評価の実施

国内外全ての生産系拠点の水リスクを調査。対応の優先順位を明確化。

①洪水リスク

②水質リスク

③濁水リスク

## 2.具体的な取り組み

### ①洪水リスク対策

防水壁の設置

防水壁  
日本罐詰(株)



### ②水質リスク対策

RO膜の導入

RO膜設備



## 3.今後の対応

(1)ソフト面

**水リスクを踏まえた事業継続計画（BCP）の策定**

- ①人命救助を最優先した、警戒レベルでの行動を明文化
- ②自工場の洪水被害時の代替生産工場の検討

(2)ハード面

**各リスクごとの被害想定額により対策を立案、実施**



資源循環

【目指す姿】

「サーキュラーエコノミー」への移行

2050年目標

①製造工程での廃棄物のゼロエミッションを実現します

②再生材などを活用し容器包装に使用する新たな自然資本の  
最小化を実現します

資源循環



## 1.現状の取り組み

### (1)排出物の発生抑制

- ①生産効率の向上
- ②容器包装の使用量削減

### (2)リサイクルの徹底

- ①動植物性残渣
  - a.飼料化 b.肥料化 c.メタン発酵
- ②容器包装
  - 再生処理事業者によるリサイクル

## 2.今後の取り組み

(1)リサイクルに適した素材の開発

(2)リサイクル設備の導入

(3)炭化技術の活用

(4)ITの活用

# 資源循環：自然資本の最小化

## 1. プラスチック使用量の削減に関する目標について

プラスチック削減	<b>国内の容器包装などのプラスチック使用量削減</b>
	2023年度目標： <b>15%以上削減</b> *2017年度比 2030年度目標： <b>25%以上削減</b>

## 2. 具体的な取り組み

### (1) リデュース（軽量化）


- ① 容器包装の軽量化
- ② 紙製への変更



ドリンクタイプペットボトル重量：  
13g→8.7gに軽量化

### (2) リユース・リサイクル

#### プラスチック製物流資材の再利用




パレット                      クレート


### (3) バイオマスプラ・再生プラの使用拡大

- ① 容器・包装への配合
- ② ストローへの配合

バイオマスプラを10%配合



添付ストローは年間6.5億本



### (4) お取引先様との協働

- ① 環境配慮型素材の研究開発
- ② 自主回収スキーム構築



汚染防止

【目指す姿】

事業活動由来の環境汚染ゼロへ

2050年目標

汚染防止

- ①事業活動由来の化学物質による環境汚染ゼロを目指します
- ②サプライチェーン全体における環境汚染の課題解決に取り組みます

## 1.現状の取り組み

### (1)排水処理

#### ①水質管理

- a.法令よりも厳しい自主基準を設定
- b.活性汚泥処理法による排水処理

#### ②環境技術を用いた設備の導入

排水負荷の大きい廃液には、  
二段階での処理を実施

メタン発酵排水処理設備



### (2)化学物質管理

#### ①環境への排出量のモニタリング管理と最小化

#### ②各国法規制に準じた自主管理基準の強化徹底

## 2.今後の取り組み

(1)安全性の高い化学物質への切り替え

(2)サプライチェーン全体での汚染防止の取り組みの強化

1. 明治グループ長期環境ビジョンについて

**2. ESG投資枠について**

3. サステナビリティファイナンス・フレームワークについて

## ESG投資枠300億円の設定

主要項目	投資内容
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	①省エネに優れたトッランナー設備への更新・導入 ②太陽光発電設備の導入 など
脱フロン対策	①ノンフロン冷蔵・冷凍設備への更新・導入 など
プラスチック使用量の削減	①容器包装軽量化・再利用のための設備の導入 ②環境に配慮した容器包装設備の導入 など
水資源の確保	①生産工程における洗浄水の再利用設備の導入 ②水質改善・雨水利用設備の導入 など

1. 明治グループ長期環境ビジョンについて

2. ESG投資枠について

**3. サステナビリティファイナンス・フレームワークについて**

## 2021年1月 サステナビリティファイナンス・フレームワークの策定

### 1. 策定の目的

「**明治グループサステナビリティ2026ビジョン**」の実現に向けた活動に必要な資金について、サステナビリティファイナンスを活用し、社会課題の解決を図る。

### 2. フレームワークの概要

ICMA(国際資本市場協会)の**グリーンボンド原則**および**ソーシャルボンド原則**に定められた4要素に基づき策定。

調達資金の使途

プロジェクトの評価  
と選定のプロセス

調達資金の管理

レポーティング

### 3. 第三者による評価取得

第三者機関である株式会社日本格付研究所（JCR）から、**最上位である「SU1(F)」の評価を取得**した。



## 【選定された資金使途：11項目】

### 持続可能な 調達

- ① サステナブルカカオ調達
- ② カカオ農家支援活動
- ③ 責任あるサプライチェーン構築



### 環境

- ④ 国内外工場の省エネ化・創エネ化
- ⑤ 国内外における水資源の確保・保護
- ⑥ 環境に配慮した商品パッケージへの転換
- ⑦ 地域生態系の保護活動



### こころとからだの 健康

- ⑧ 乳幼児栄養への取組に係る設備投資・研究開発
- ⑨ 感染症対策に係る研究開発および設備投資
- ⑩ 健康寿命の延伸に係る研究開発
- ⑪ 次世代育成に貢献する活動



# ご質問方法(挙手)



**質問方法  
(挙手)**  
① 挙手ボタンを押してください



② ご質問への回答が完了しましたら、再度押していただきOFFにしてください

※参加者ウィンドウが開かれておらず、挙手ボタンが見当たらない場合は、右下の「参加者」ボタンをクリックしてください

# ご質問方法(チャット)



**質問方法  
(チャット)**

①送信先に  
「主催者とプレゼンタ」  
を選択

②こちらにご質問  
を入力いただき、  
「Enter」ボタン  
を押してください

## ■お問い合わせ先

明治ホールディングス株式会社 IR広報部 IR広報G

電話：03-3273-3917

E-mail: [ir-info@meiji.com](mailto:ir-info@meiji.com)

- ・ 本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- ・ 本資料には、医薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。